

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年7月15日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) 【No.30】

九州労大量脱退事件」はJR革マル派が首謀！

前号の通り、革マル派は「九州労大量脱退事件」について機関紙「解放」に毎号論文を掲載しJR総連組合員のみならず、「JR総連内の党员」や「JR総連内ケルン」にも決起を訴え、JR総連内の革マル派党员の存在を自ら認めた。JR総連・東労組は、なぜか「革マルは一人もいない」と断言しているのだが、この問題については改めて検証したい。

九州労大量脱退事件」は 坂入氏拉致 監禁事件」に発展！

ところで、産経新聞(2000年12月3日朝刊)は、「JR九州労の集団脱退の真意は…」
「不気味、革マル派の影」と題して、次のように報じている。

- (前略) 今回の集団脱退は、中央組織の動きを抜きには語れない。昨年(注:1999年)1月に公安調査庁が出した「内外情勢の回顧と展望」ではJR総連最大の加盟労組「JR東労組」に革マル派が浸透していると記載された。- (中略) - そうした中、革マル派は今年2月、機関紙「解放」にJR総連の幹部を批判する植田琢磨議長名の異例の声明文を掲載した。これにより両者の確執が表面化、関係がキナ臭くなっている。JR九州労の集団脱退発生後の11月3日には、九州労の大量脱退に関与したとされるJR総連OBの男性(60)が埼玉県内で行方不明となった。革マル派による拉致事件とみたJR総連は、埼玉県警吉川署に告発。さらに革マル派とみられる人物からJR総連の小田裕司委員長に「残る人生を権力の犬として死んでくのか」などの脅迫文が送り付けられたことから、同署に告訴もした。これに対し革マル派は機関紙で「満身の怒りをこめて弾劾する」と敵対感情をむき出しにしている。- (後略) -

(2000年)11月3日に拉致されたJR総連OB組合員とは、JR労研中央幹事会事務局長で革マル派から「古参党员」と呼ばれる、「南雲」なる党员名を持つ坂入充氏のことだ(No.12参照)。革マル派は「解放」で坂入氏が「九州労大量脱退事件」の首謀者の中心人物であることを明らかにした。坂入氏がこの戦術の失敗を革マル派による拉致・監禁下での「大討論集会」で、「九州労組合員を九州労組に売り渡した問題の総括」と題して自己批判した内容を再度紹介したい(「解放」1649号 2000年12月18日)。

九州労組合員を養殖組合に売り渡し、動労以来の戦闘的労働運動の伝統をぶちこわしてしまった裏切り行為の全責任はJR労研中央幹事会事務局長である私と事務局メンバーである船戸、田岡、新潟の松崎、および総連委員長小田にあります。この犯罪行為についてJR戦線およびすべてのたたかう労働者同志に心からお詫びし、自己批判いたします。

そもそも普通の労働組合で、600名以上の組合員が前触れなく突然に脱退し、敵対労組に一斉に加入申請する事態が起こり得るだろうか。そして坂入氏は「九州労大量脱退事件」は、自分とJR総連小田前委員長らが仕組んだと自ら述べているのだ！この奇怪な事件は、JR革マル派が仕組んだことは間違いない。その戦術に怒った革マル主流派が、内部対立していたJR革マル派の首謀者・坂入氏を拉致・監禁し、この問題を巡り自己批判させたことは疑いない。1994年の動労第4代青年部長の上野孝氏の拉致事件と同じ構図だ(No.25、26)。検証すればするほど、JR総連への革マル派浸透の疑惑は確信に変わっていく。

検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！」はJR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>